# 人権の必要性と私たちの生活

守山南中学校二年　出水　香凪

中学生になってから、人権について深く考える授業が多くなっていると感じます。それは、私たちがもう自分で考えて実行できる年齢であり、色々な方法を使って他人を傷付けられるからであると私は思います。差別や言葉の暴力を相手にぶつける前に、正しい知識を身に付けることはとても大事です。そうやって人権の授業を受ける度に、私はいつも思い出す出来事があります。その出来事は、私が人権について深く考えるきっかけになったことでした。

小学五年生の冬の時期、私はドッジボールが目に当たってしまった友達の付き添いで保健室に向かっていました。わざと当てられたらしいのです。憤りを覚えながら当てた人達の元に行くと、思わず目を丸くするような言葉を吐かれました。

「だって、あの町から引っ越してきたから。」それを聞いた瞬間、私は本気で何を言っているのかわからない、と思いました。どこの町から引っ越してきたとしてもその子には何の関係もないのに、どうしてあんな酷いことをしたのか理解ができませんでした。特にその子が当てた人達に何かしたというわけではありません。生まれて初めて部落差別を目の当たりにした時、心臓に冷たいものを当てられたような感覚が今でも忘れられないです。私は絶対にそんな差別をしたくない、という思いからインターネットで様々な差別について調べました。前述のとおり、正しい知識を得ることはとても大切だからです。調べた差別の中では、決して許せないような仕業を受けた人も多くいました。差別は知らず知らずの内に人の心に住むものです。私も気をつけてはいるものの、無意識にしてしまっているかもしれません。しかし、相手を直接傷付けてまでして自分から遠ざけようとするのはあきらかに人権侵害であり、許してはいけないことだと思います。

人権とは、生きる上で尊重されるべき権利のことです。しかし、今はインターネット上などでも簡単に人権を侵害できます。匿名ならば誰が発信したのかなんてわからないし、ネットタトゥーとしてずっと残り続けます。誰もが誰かの人権を侵害して生きている。本当に、今の日本はそれでいいのでしょうか。日本固有の部落差別を後世に残していかないために私たちがどうしていけば良いのか、今こそ考えるべきだと私は思います。